

【エクアドル内政・外交：2012年7月】

1. 概要

- 7月 10日 ミシェル・マルテリー・ハイチ大統領の当国訪問
- 24日 ホセ・マヌエル・ガルシア・マルガヨ西外相の当国訪問
- 30日 ウィキリークス代表の母親クリスティーン・アサンジの当国訪問

2. 外交

(1) ウィキリークス代表ジュリアン・アサンジの亡命

25日、パティーニョ外相はウィキリークス代表ジュリアン・アサンジの政治亡命申請につき、8月12日に終了するオリンピック後に回答すると発言した。

26日、英国放送協会(BBC)は、数日前に在英エクアドル大使館とスウェーデン司法当局の関係者等が接触し、スウェーデン側は性的暴行などの容疑でスウェーデン検察当局の捜査のため英国への身柄引き渡しを要求した旨報じた。

26日付英ガーディアン紙は在英エクアドル大使館筋の話として、アサンジ氏がスウェーデンに引き渡されれば米国に移送され、外交文書を漏洩したスパイ罪で裁かれることを恐れており、エクアドル政府は米国政府にアサンジ氏の起訴を行わないよう保障を求めるために英・米・スウェーデン・豪と接触している旨報じた。

30日、リカルド・パティーニョ外相は在英エクアドル大使館の庇護のもとにあるウィキリークス代表ジュリアン・アサンジ氏の母親であるクリスティーン・アサンジ(Christine Assange)氏と会談した。外相は、「クリスティーン氏は息子に対する保護に謝意を示すため、また息子及び家族のおかれた状況と右が与える影響につきをコリア大統領に説明すべくエクアドルを訪れた。クリスティーン氏は当国の招待客であり、我々は歓迎している。彼女が与えた情報につき満足しており、彼女とその家族のおかれた状況に強心が揺さぶられた」旨述べた。

一方、クリスティーン氏はパティーニョ外相並びにエクアドル政府に対する謝意を表明し、本国に捨てられたと感じている旨語った。

(2) 対スペイン関係

24日、パティーニョ外相の招待により、ホセ・マヌエル・ガルシア・マルガヨ(Jose Manuel Garcia Margallo)西外相がエクアドルを公式訪問した。

外相会合では、二国間関係における政治、経済、通商、人の移動、経済協力等の重要なテーマにつき話され、両国関係の友好的な雰囲気につき強調した。また、両国政府は二国間協力、友好の絆の深化及び強化を続ける意思を重ねて表明した。

(3) 対ハイチ関係

10～12日、ミシェル・マルテリー(Michel Martelly)ハイチ大統領はコリア大統領及びパティーニョ外相と会談し、ハイチ支援継続にかかる科学技術協力など2件の経済協力協定に署名した。マルテリー・ハイチ大統領は、エクアドルの総額1500万ドルの支援、及びエクアドル国軍による橋架や道路の建設、灌漑用水の清掃実施に謝意を表明した。また、ハイチが受ける経済支援は種々社会プロジェクトの実施に充てられ、雇用創出を目的とした農業促進、優先課題の復興に向けられる旨述べた。